

中国四国地域における 飼育下チンパンジーの父系について

○久川智恵美¹⁾ 福守 朗²⁾ 森村成樹³⁾

1) わんぱーくこうちアニマルランド

2) 鹿児島市平川動物公園

3) 京都大学野生動物研究センター-熊本サンクチュアリ

はじめに

- チンパンジーはIUCNの定める絶滅危惧種であり、飼育下個体群の持続的管理が域外保全に直結している
- 適切な個体群管理のためには、実際に繁殖可能な個体数を明らかにした上で計画的に繁殖を行う必要がある

-
- 血統登録台帳からは飼育状態や行動特性が読み取れないため、今後の個体群の動態予測は困難である
 - そこでSAGA17で発表された「九州沖縄地域における飼育下チンパンジーの父系について」(福守)にならい、繁殖の可能性のあるオスの個体数と父系の数を明らかにすることを目的として、中国四国地域での飼育状況調査を行った

方法

- 対象は中四国地域の全飼育施設
(JAZA加盟園 7園)
- 直接訪問
- 各園の全ての個体を対象
- 2016年6月から10月に実施

-
- 社会管理状況を明らかにするため同居個体の個体名、性別、年齢を調査
 - 交尾行動の有無、過去に残した子孫の数は聞き取り調査や血統登録台帳から集計
 - 繁殖実績はないが、生育歴や社会性から繁殖の可能性のある個体を推定

中国四国地域のチンパンジー飼育園

♂13 ♀18 計31
(国内総数の9.8%)



結果

- 中四国地域のオスのチンパンジー
→ 13頭・・・国内の9.4%に相当
(国内のオスの総数は138頭)

- 亜種別内訳

ニシチンパンジー 10頭
上記以外 3頭

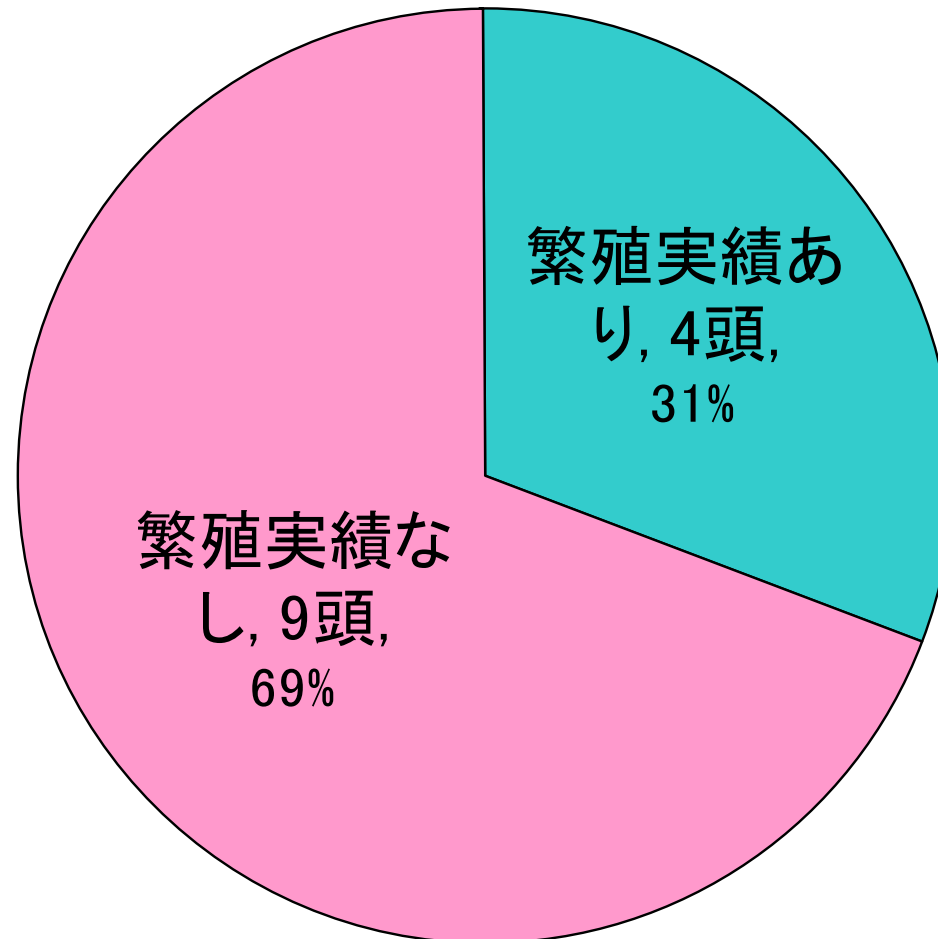
- 飼育形態別のオスの頭数

単雄複雌群	3群	5頭
ペア飼育	2群	2頭
複雄群	1群	3頭
単独飼育	—	1頭

今回の調査では13歳以上の雄または雌が複数いる場合を複雄群、複雌群とした。

繁殖実績があるオス

- ・4施設に4頭存在 (4頭/13頭 30.8%)

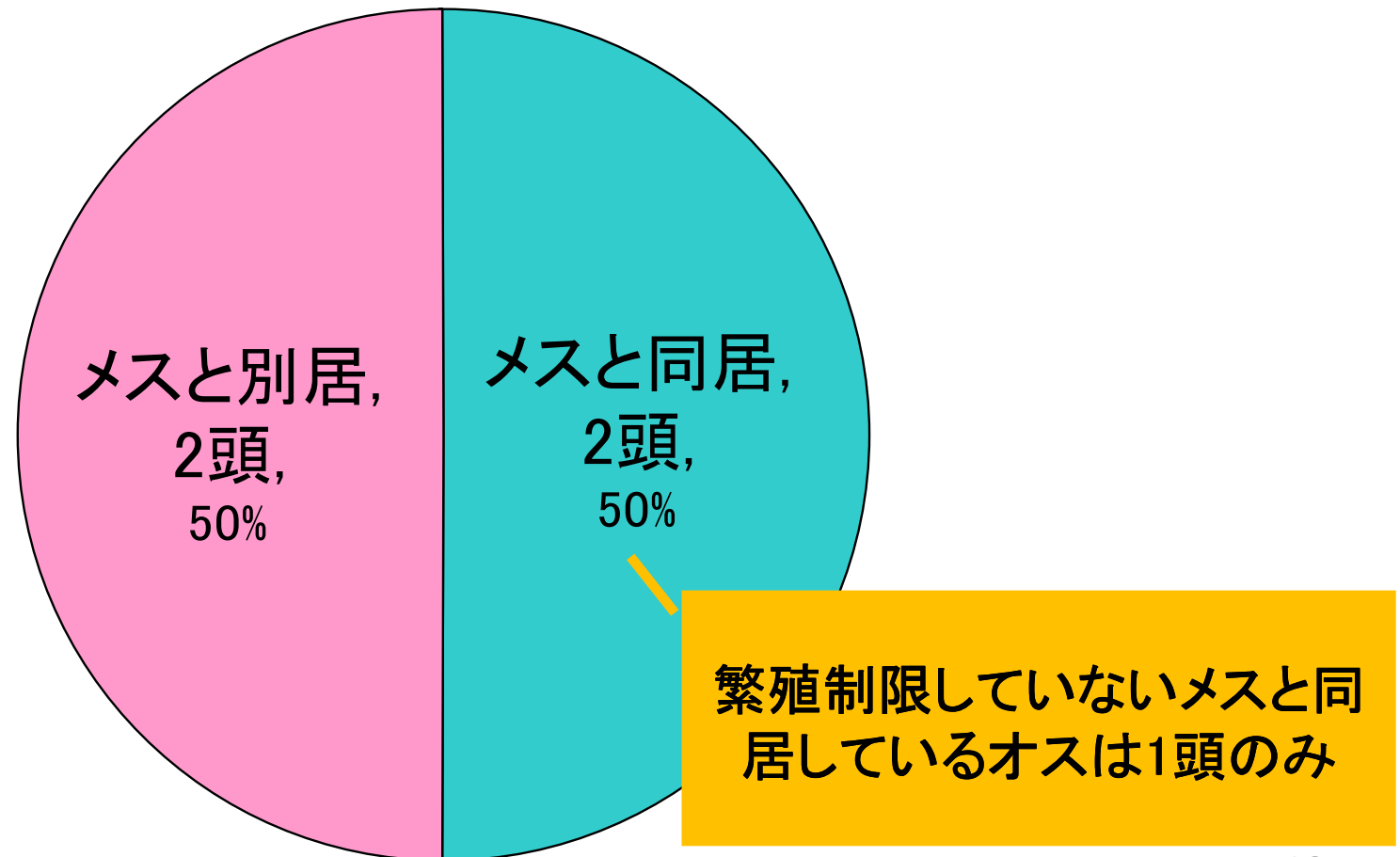


繁殖実績があるオスの生育歴

野生由来個体		0頭
飼育下繁殖	自然哺育	4頭
	人工哺育	0頭

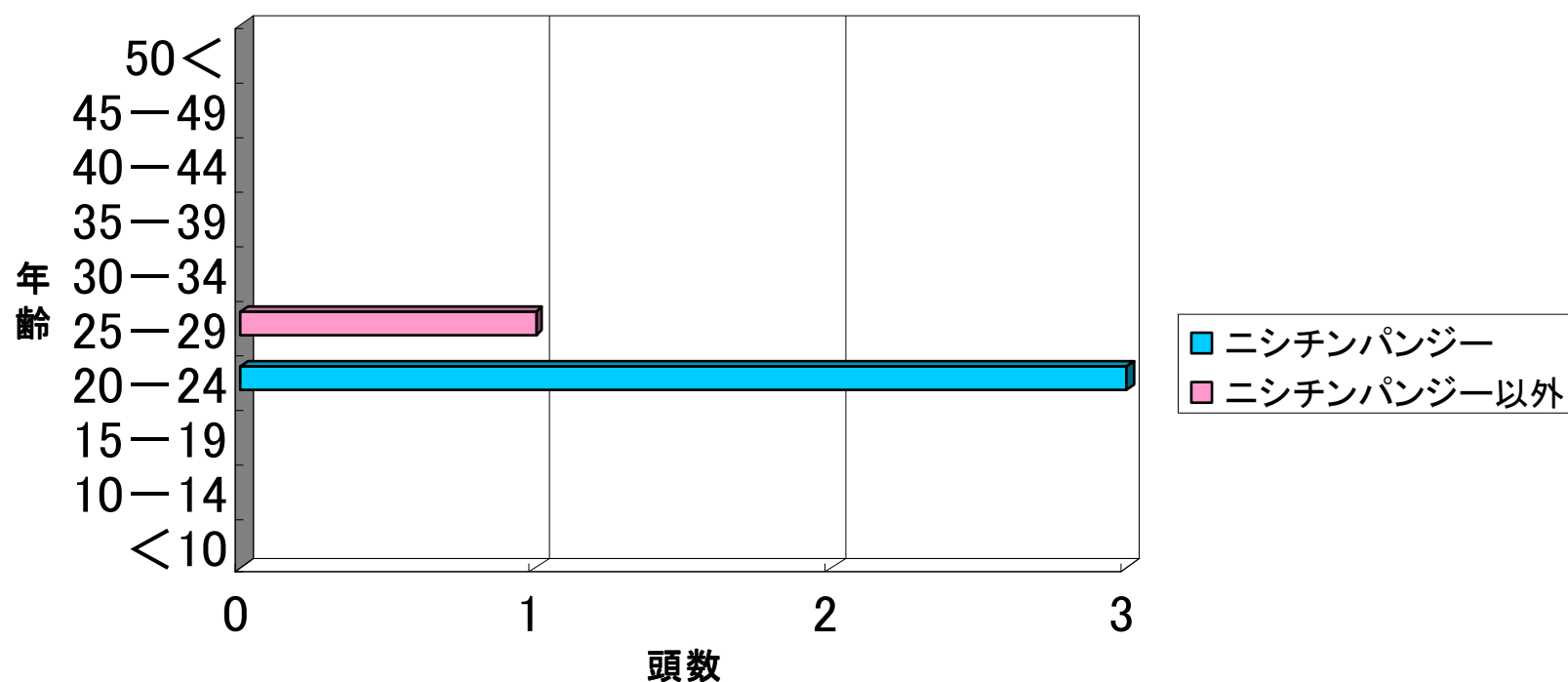
繁殖実績のあるオス

- 繁殖実績のあるオス4頭のうち、メスと同居中は2頭、2頭とも単雄複雌群で飼育



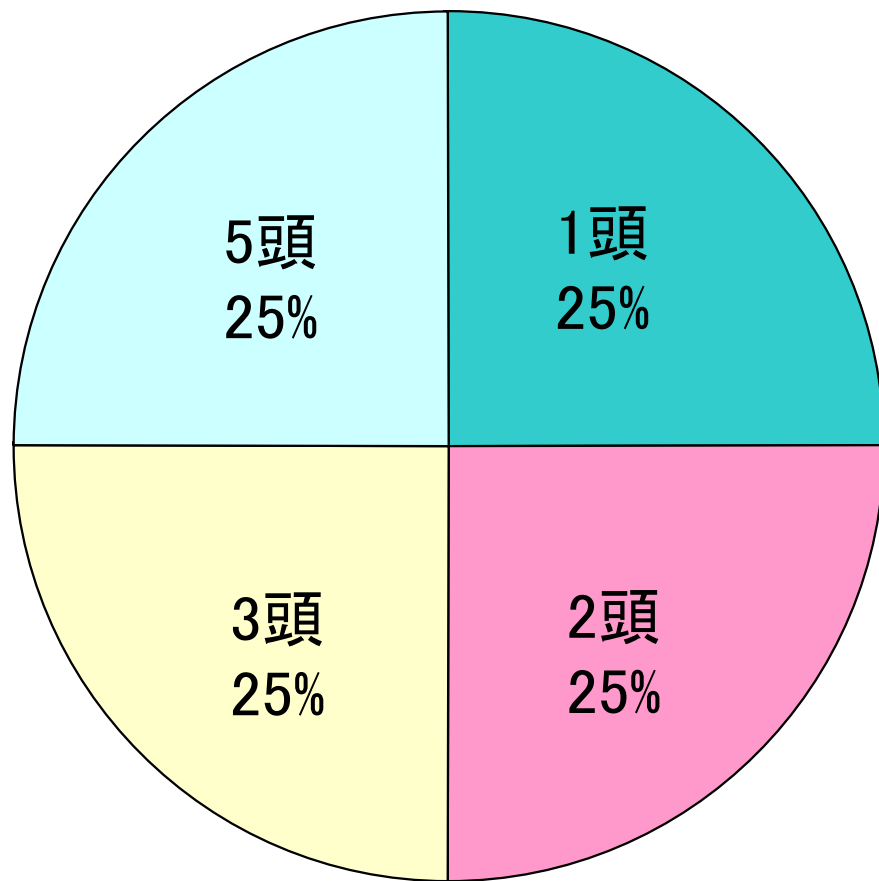
繁殖実績のあるオス

繁殖実績のあるオス



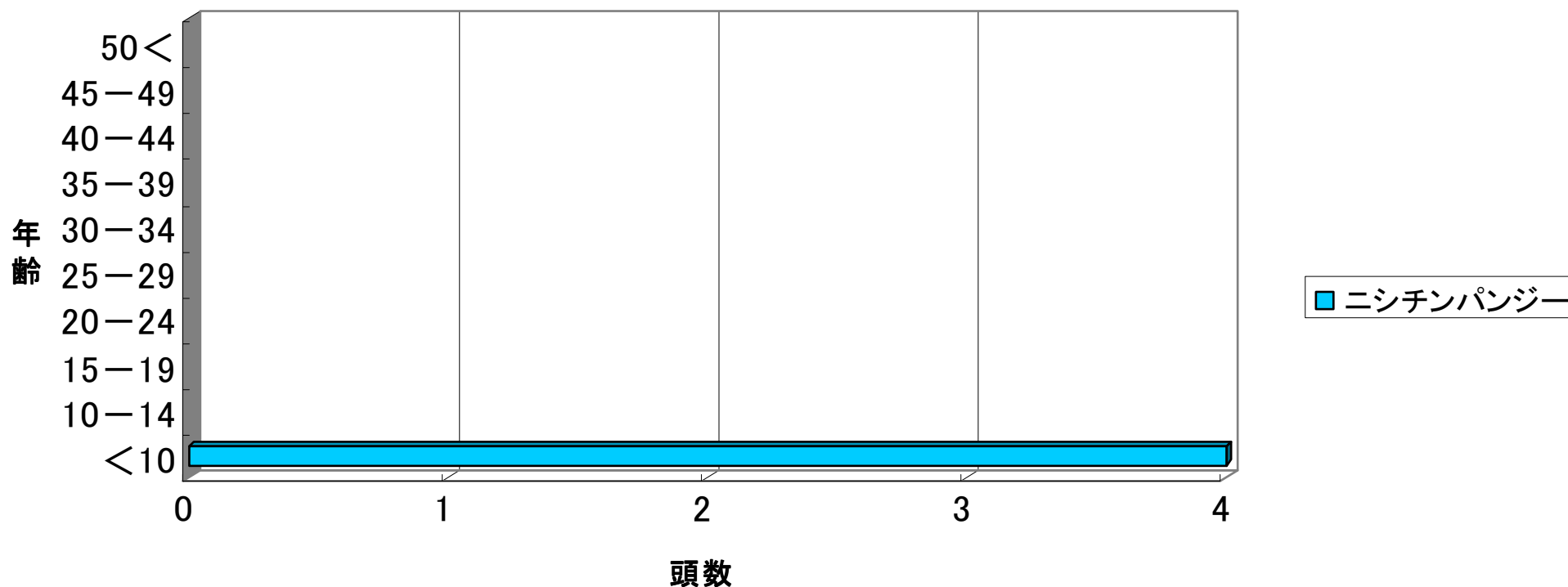
- 年齢は21歳～26歳
- 平均年齢(±SD)は22.8±2.4歳

繁殖実績のあるオス



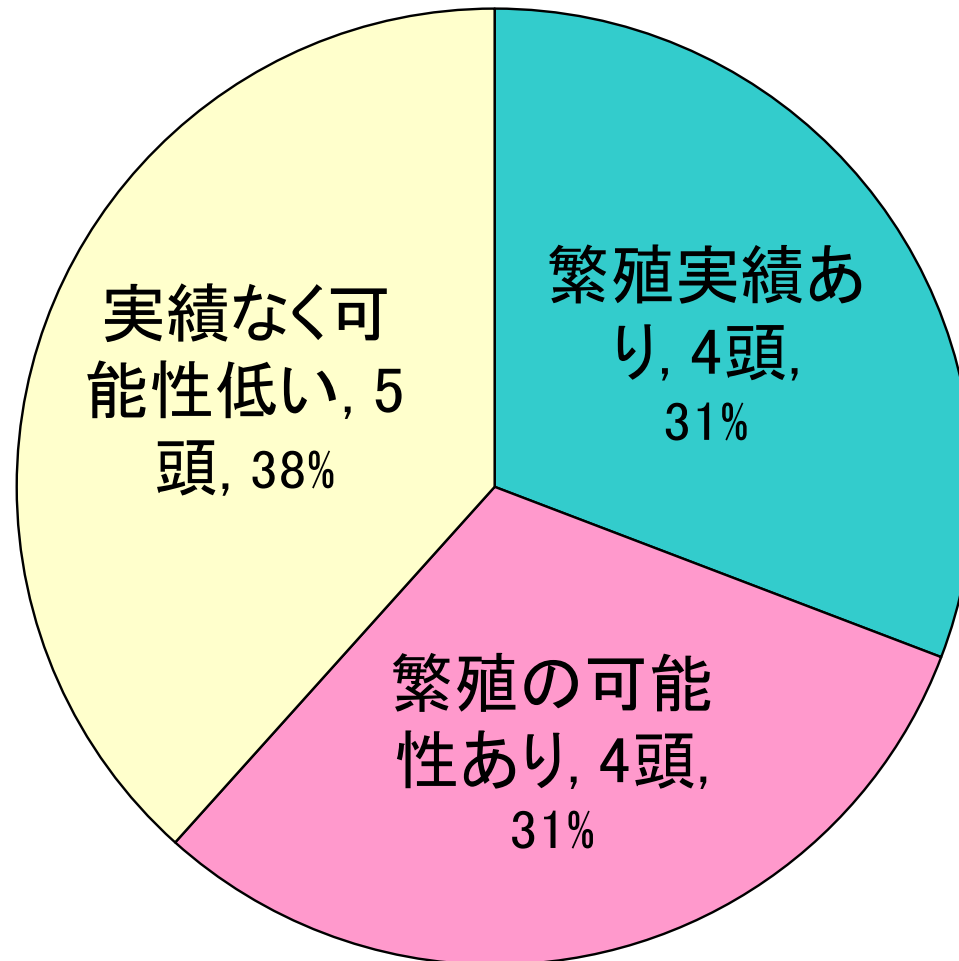
- 子孫のうち、生存するのは1～5頭(合計11頭)
- 子孫のうち、飼育下3世は8頭、4世は3頭
- 子孫を残しているファウンダーとなるオスは0頭
- 子孫を残しているオスの父系のファウンダーは4頭
- ファウンダーの内訳は
 - ニシチンパンジー 3頭
 - それ以外 1頭

繁殖実績はないが繁殖の可能性のあるオス

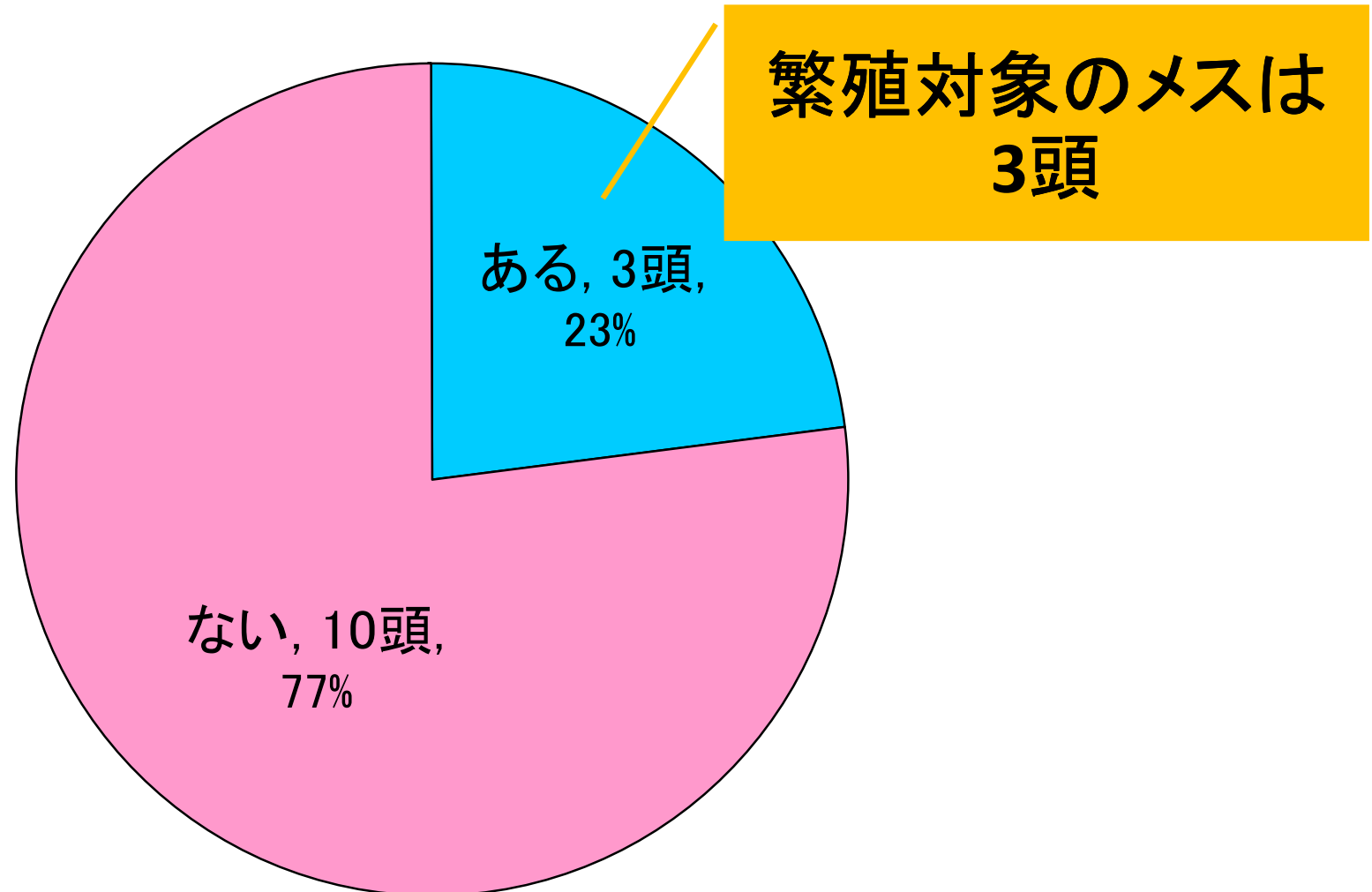


- 繁殖の可能性のある個体は 3施設に4頭
- 年齢は1歳～7歳の範囲
- 平均年齢(±SD)は4.3±2.8歳
- すべて繁殖実績のあるオスの子孫の若い個体
- 上記はすべてニシチンパンジー

オスの繁殖実績および可能性



調査時点で繁殖の可能性があるオス



考察および課題

- 繁殖実績のあるオスがメスと同居していない、もしくは同居していても繁殖制限されている現状がある。
- 3園のみ繁殖の可能性がある。
4園は個体移動なしでは繁殖見込みなし。
- ペア飼育や、複雄飼育など、繁殖群としての機能が少ない園が多い。アルファが交尾不可の園も。

考察および課題

- 今後飼育施設間の連携と情報共有、具体的繁殖計画の立案と実行が急務である。
- 今回の調査で、九州沖縄、中国四国、北海道、中部の各ブロックの実態が明らかになった。今後、国内全ての地域での調査が進めば、繁殖計画の立案にプラスとなるであろう。

謝辞

本研究は京都大学野生動物研究センターの共同利用・共同研究として実施されました。また、中国四国地域のチンパンジー飼育園の皆様には調査に対し多大なるご協力をいただきました。関係する皆様に深く感謝申し上げます。

